

(仮称) 新三宮図書館基本計画

平成 30 年 12 月

神戸市

目次

はじめに	1
第1章 (仮称) 新三宮図書館整備の背景	2
1. 「三宮周辺地区の『再整備基本構想』」(平成27年9月策定)	
2. 「新たな中・長距離バスターミナルの整備に向けた雲井通5・6丁目再整備基本計画」(平成30年3月策定)	
(1) 再整備ビルの構成	
(2) 図書館に求められているもの	
第2章 三宮図書館の現状	5
第3章 市民ニーズの把握	6
1. 利用者アンケート(平成28年6月)	
2. 新三宮図書館整備に係る関連計画のパブリックコメントでの意見(平成30年2月)	
3. 新・三宮図書館基本構想に係るネットアンケート(平成30年6月)	
第4章 (仮称) 新三宮図書館整備検討会	13
1. 検討会委員名簿	
2. 検討会開催記録	
3. 検討会での意見のキーワード整理	
第5章 (仮称) 新三宮図書館整備に必要な視点	15
第6章 (仮称) 新三宮図書館コンセプト・基本方針	16
1. コンセプト	
2. 基本方針と機能	
(1) 神戸の玄関口・三宮に、他には無い美しく快適な読書空間をつくります。	
(2) 暮らす人、働く人、学ぶ人に対し、本に限らないデジタルメディアなど最新のICT技術を活用した新たなサービスの提供にチャレンジします。	
(3) 暮らす人、訪れる人に、神戸の歴史と文化、居住場所としての魅力を紹介し、神戸の再発見につなげます。	
(4) 障害者、高齢者、若い子供連れの方、外国人など多様な人々の図書館利用のアクセシビリティに配慮します。	

- (5) 文化芸術情報、地域情報、行政情報など、さまざまな情報を求める利用者を、中央図書館はもとより、博物館、文書館などの専門機関や市政情報室や大学等につなげます。
- (6) 文化ホールやバスターミナルに近い環境を生かし、新たな利用者層を掘り起こし、街の賑わい創出や回遊性向上の一助となります。

第7章 新しい図書館に求められる規模..... 19

(参考) 世界や日本の美しい図書館

第8章 再整備ビルのスケジュール..... 20

- 1. I期についての目標スケジュール
- 2. (仮称) 新三宮図書館に関する今後の検討について

はじめに

人口減少時代を迎えるなか、神戸市は「若者に選ばれるまち＋誰もが活躍するまち」をテーマに、神戸のまちとしての総合力を高める施策を進めています。なかでも都心三宮の再整備については、神戸の玄関口であるシンボリックな空間として、魅力的で風格ある都市空間の実現が求められています。

現在の三宮図書館は、JR三ノ宮駅の東側、中央区雲井通5丁目の勤労会館1階にあり、都心三宮の再整備エリアに位置しています。再整備にあたって、雲井通5・6丁目には中・長距離バスターミナルが計画され、平成30年3月、「新たな中・長距離バスターミナルの整備に向けた雲井通5・6丁目整備基本計画」が策定されました。その計画の中で、図書館は文化芸術を体感・発信する施設として再整備ビル内に設けられることとなりました。

図書館本来の機能は、年間約7万冊も出版される玉石混交の出版物の中から、予算規模に応じて収集するに値する資料を選び、分類・整理して市民に提供し、その一部を何十年の単位で保存し、次世代の市民に渡すことです。中央図書館が持つ保存機能や地域図書館で受ける身近なサービスなど、神戸市立図書館のネットワークにより、市民の知る権利を資料提供という形で保障するのが図書館の責務です。

提供の方法は、単に本を美しく並べておくだけではありません。窓口での日常の質問に答えながら市民の要望に向き合い、どのような本や情報が目の前の人の役に立つのかを探り、資料展示や本に係る様々なイベント等を実施し、本と人をつないでいます。

現在の三宮図書館は交通至便の場所にあるため、神戸市の図書館ネットワークの中では、予約した本を手軽に受け取れる場所という側面と、身近な地域図書館としての側面があります。都心三宮の再整備にあたって、新しい三宮図書館は神戸の玄関口にある図書館として、従来の地域図書館機能に加え、新たな機能が求められることとなります。

都心三宮の再整備は、非常に大きな、しかも年月のかかるプロジェクトです。この「（仮称）新三宮図書館基本計画」は、図書館機能のうち、長い年月の中でも変わらない部分と、時代や場所の要請に応える部分のバランスも勘案し、新しい図書館の基本的な方向性や機能を示すものです。プロジェクトの進捗にともない、今後も市民の意見を聴取し、サービス内容について、より具体的な検討を行ってまいります。

第1章 (仮称) 新三宮図書館整備の背景

1. 「三宮周辺地区の『再整備基本構想』」(平成27年9月策定)

三宮駅周辺は「駅から周辺のまちへのつながりが悪い」「玄関口にふさわしい特色ある景観がない」「駅の東西6箇所にバス乗降場が分散していてわかりにくい」等の課題があります。この基本構想では、目指すべき将来像として「美しき港町・神戸の玄関口“三宮”」を掲げ、快適で利便性が高く、美しい景観が備わり、様々な市民活動が展開される「えき～まち空間」を創出し、三宮周辺地区の魅力向上を図ることがうたわれています。

■ 目指すべき将来像

美しき港町・神戸の玄関口“三宮”

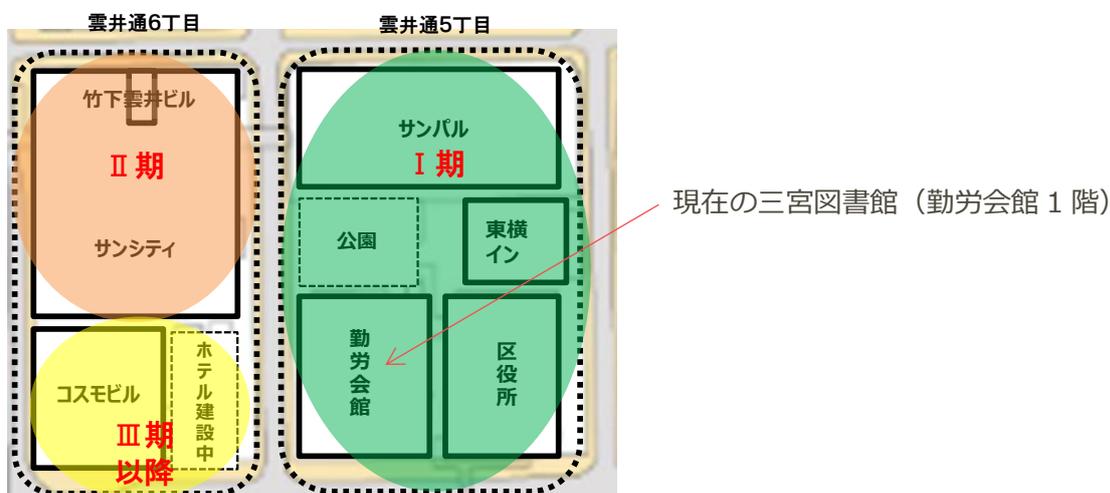


(「三宮周辺地区の『再整備基本構想』」より)

2. 「新たな中・長距離バスターミナルの整備に向けた雲井通5・6丁目再整備基本計画」(平成30年3月策定)

「三宮周辺地区の『再整備基本構想』」で示された新たなバスターミナルの整備の事業化に向けて、「新たな中・長距離バスターミナルの整備に向けた雲井通5・6丁目再整備基本計画」が策定されました。この計画では「再整備の進め方」「バス乗降場集約の考え方」「再整備ビル全体のイメージ」「再整備の具体的手法」など事業化に向けた基本的事項についてまとめるとともに、再整備エリアをⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期以降の3つのブロックに分けることとし、それぞれの地権者が中心となって協議を行いながら、段階的に施行するものとなっています。

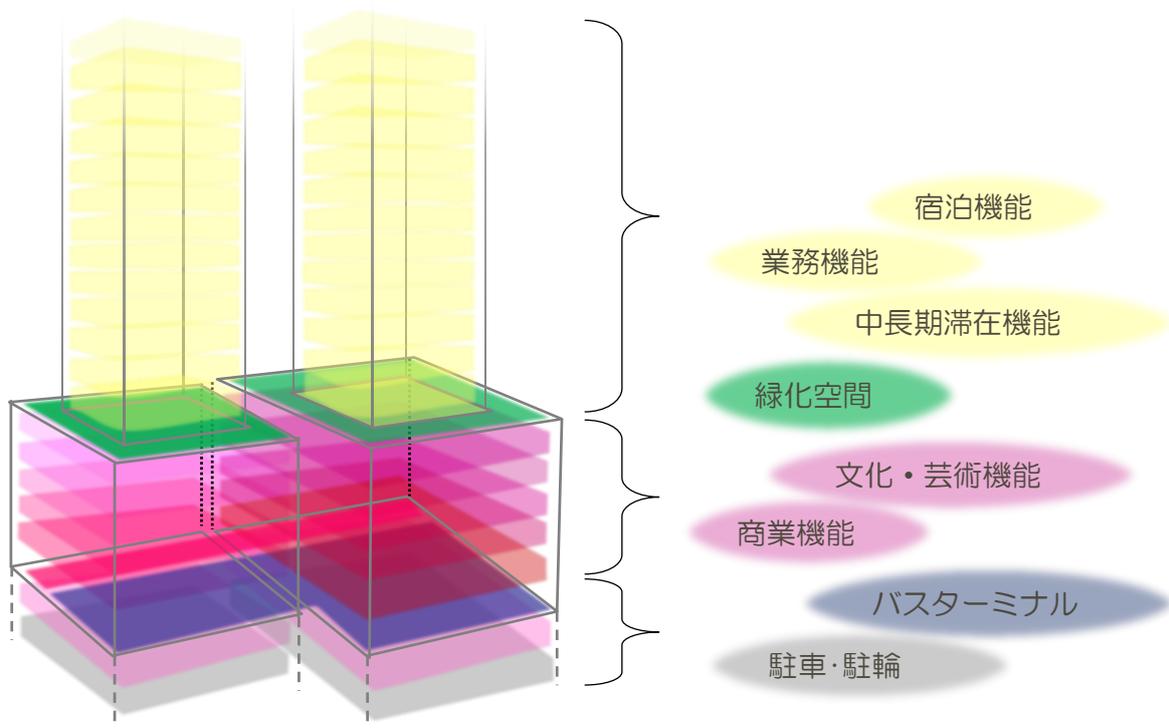
この基本計画において、新たな三宮図書館は現在と同じ場所に建つⅠ期ブロックの再整備ビル内に設置されることとなり、文化芸術を体感・発信する施設として位置づけられました。



<現在の雲井通5・6丁目と再整備のブロック分け>

(1) 再整備ビルの構成

「新たな中・長距離バスターミナルの整備に向けた雲井通5・6丁目再整備基本計画」では、再整備ビル全体の構成は、以下のとおりです。



再整備ビル全体のしつらえについては、新たな神戸の玄関口にふさわしい建築物及び公共空間の形成を図ることや、建物内での緑化空間の確保や壁面緑化などを積極的に取り入れ、うるおいある景観を形成すること、また、ビル内の施設利用者のための託児所など子育て支援機能の充実や高齢者・障害者などのスムーズな移動の確保など、誰もが安心して利用できるユニバーサルデザインを取り入れた施設計画を行うものとされています。

(2) 図書館に求められているもの

この計画の中で新しい三宮図書館は、眺望や緑化空間を活かしながら、知の文化に触れられる図書館として、併設されるバスターミナルやホールとの連携を図ることで、観光客など新たな利用者層を呼び込むことが期待されています。

神戸市立図書館の中央図書館と地域図書館のネットワークのなかで、従来の地域図書館は、市民の身近にある図書館として、便利に貸出、返却、予約ができること、雑誌や本を閲覧できるように整えること、日常的な読書要求や読書相談に応えることを主な目的としてきました。この計画において新しい三宮図書館は、その機能に加え、三宮で暮らし働く人々だけでなく、ホール利用者や観光客など多様な人々をサービス対象とし、本を中心に人が集い、賑わいが生まれる場所として、まちづくりに寄与することが求められています。

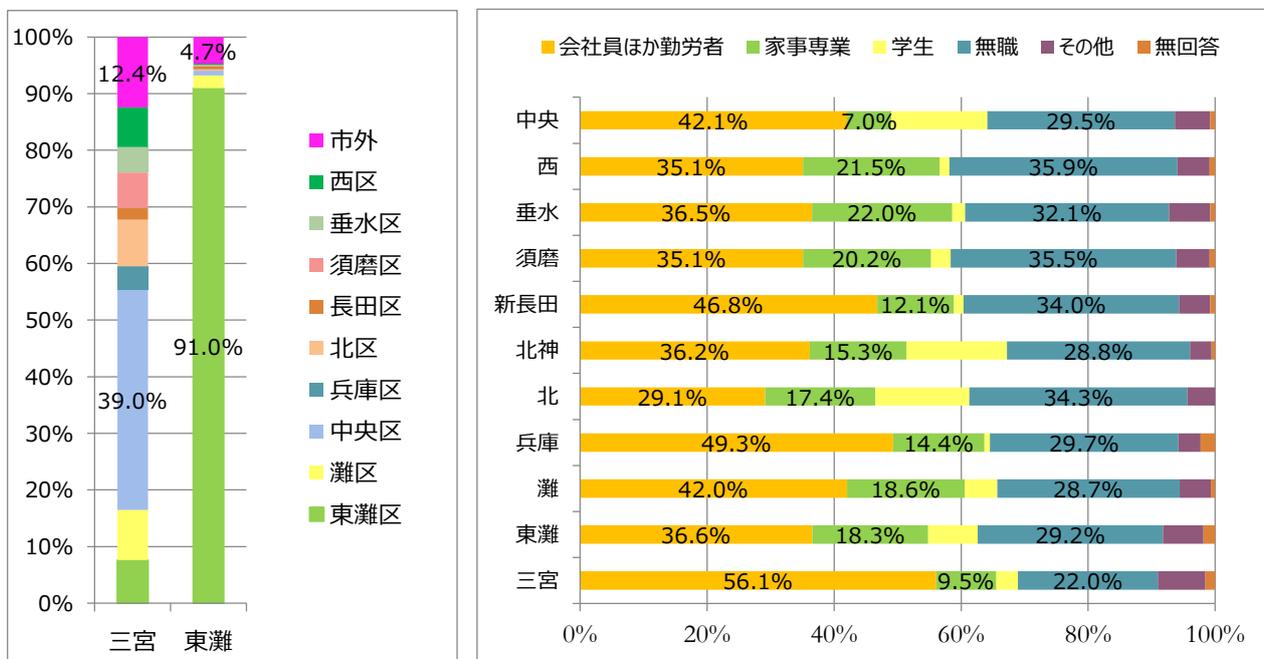
第2章 三宮図書館の現状

神戸市には中央図書館のほかに各区に一つの地域図書館があります。区域の広い北区には分館があり、中央区には中央図書館のほかに三宮図書館があるため、9区に11館の図書館が設置されています。それらの館が図書館システムで結ばれ、予約や貸出、返却がどこでも行えるようになっています。

三宮図書館は、昭和55年に、貸会議室を業務とする勤労会館との複合施設として、JR三ノ宮駅の東、徒歩5分の場所に設置されました。延床面積は606㎡と地域図書館の中では最も狭く、蔵書冊数も8万5千冊と、最も少ない状況です。しかしながら、ビジネス街に立地することから、他の図書館が平日20時まで開館しているところを21時までの開館とし、市民の利便性向上に努めてきました。また、交通の結節点である三宮にあるため、利用者層も他の地域図書館とは異なります。

「平成29年度市民満足度調査」によると、まず、他の地域図書館では利用者の9割以上が地元住民であるのに対し、三宮図書館では地元住民は約4割で、市内の中央区以外の方の利用が5割、市外の方の利用が1割となっています。さらに、三宮図書館はその立地のためか、会社員、公務員、自営業、パート・アルバイトなど、勤労者の利用が多く、約半数を占めます。また、平成29年度の来館者は58万人で、地域図書館中最多です。貸出人数は24万人で、平日は18時以降の利用者が全体の3割近くとなっています。

交通至便の駅前にある図書館として市民に便利に使われている図書館ですが、年1回全館で実施する「市民満足度調査」において、三宮図書館の満足度は低く、自由意見等からも、利用度合いに比して施設規模が小さく、快適な読書環境を提供できていないことが課題となっています。



居住地別（三宮図書館、東灘図書館）職業別（全館）いずれも「平成29年度市民満足度調査」より作成

第3章 市民ニーズの把握

市民ニーズの把握は以下のとおり行いました。

1. 三宮図書館利用者アンケート
(実施期間：平成28年6月14日～19日)
2. 新三宮図書館基本構想に係るネットアンケート
(実施期間：平成30年5月20日～6月19日)

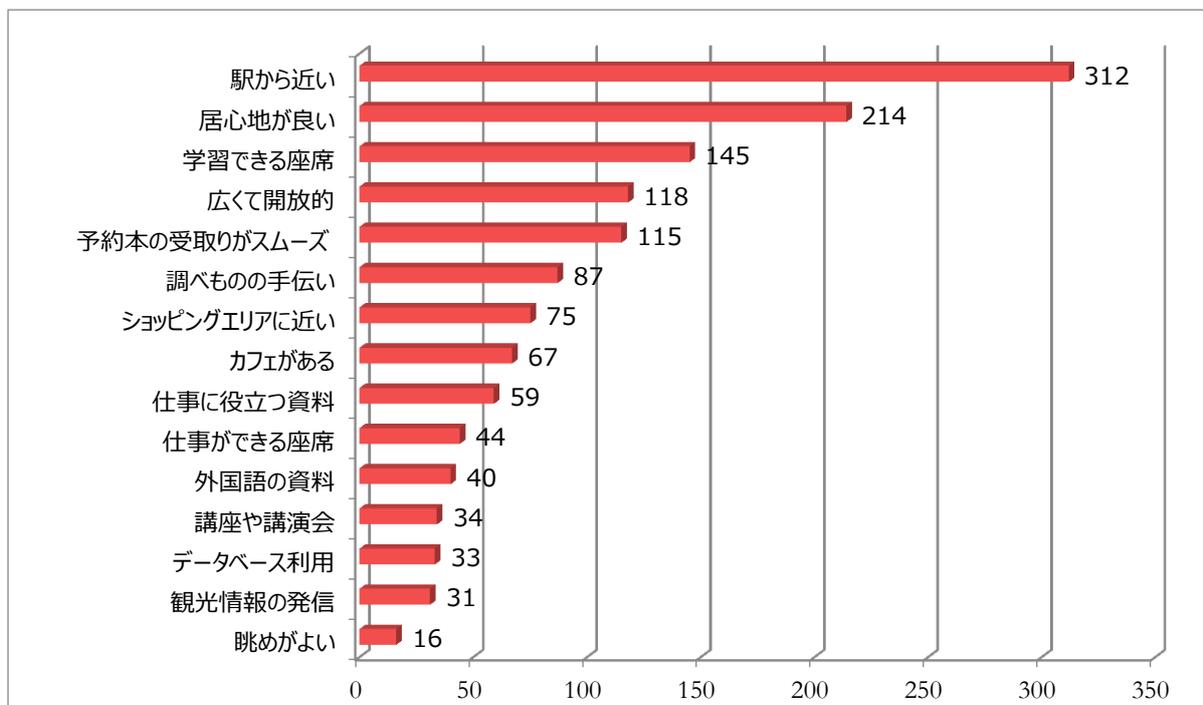
そのほか、住宅都市局が実施した「新たな中・長距離バスターミナルの整備に向けた雲井通5・6丁目再整備基本計画」及び「神戸三宮『えき～まち空間』基本計画」の市民意見募集（実施時期：平成29年12月27日～平成30年2月9日）の際の、図書館についての意見も掲載しています。

主なご意見としては、「駅からのアクセスの良さをそのままに、規模を大きく、居心地良くしてほしい」「読書に集中できる環境がほしい」「調べものに使う座席がほしい」「予約図書の出取りがスムーズにできること」「専門図書を揃えてほしい」「神戸を紹介する資料が必要」などです。

1. 利用者アンケート（平成28年6月）

三宮図書館が都心三宮の再整備エリアにあることを受け、現在の利用状況や、再整備後の図書館に望むことを来館者の中学生以上を対象に調査しました。917人にアンケート用紙を配布し、うち623人から回答を得ました（回収率67.9%）。

（1）これからの三宮図書館に期待すること（複数回答で3つまで選択）



(2) 自由意見からの抜粋（同様意見の多いもの、または特徴のある要望）

- ・ 全体的なスペースが狭いため、座席数が限られている
- ・ 自習スペースがあればいい
- ・ 子供向けの図書や英語本をもっと増やしてほしい
- ・ 留学生向けの本を充実してほしい
- ・ 本の予約や受け取りがスムーズになってほしい

2. 新三宮図書館整備に係る関連計画のパブリックコメントでの意見（平成30年2月）

「新たな中・長距離バスターミナルの整備に向けた雲井通5・6丁目再整備基本計画」と「神戸三宮『えき~まち空間』基本計画」の策定にあたり、市民意見が募集されました。いただいた意見の中から図書館に係るものを抜粋しました。

(1) 雰囲気・イメージ

- ・ 神戸の雰囲気にあった上質なものを。
- ・ 都市型で居心地の良い図書館。
- ・ 明るく、開放的な施設に。
- ・ 人々が集える文化的な空間。

(2) 資料・情報に関するもの

- ・ 観光客が神戸の玄関にある三宮図書館でレジャー、歴史、地理など各種情報が得られる観光案内機能。
- ・ 外から神戸を訪れた時に、バスターミナル周辺に神戸の歴史がわかる場所があれば。神戸空襲、阪神淡路大震災等の記録、資料等を展示する記念館を、区役所、勤労会館、図書館の建物の一角に。観光客にそういう歴史があって今の神戸があることを知ってもらうことも大事。

(3) 利用・運営に関するもの

- ・ くつろげる良い空間になれば。子供連れでも利用しやすいとさらに良い。
- ・ 老若男女が集え、勤労者がくつろげる滞在型図書館。
- ・ 家族一緒に図書館に来て、食事もできて長い時間本と触れ合うことができ、夕方にはたくさんの本を借りて帰ることができる図書館。
- ・ 専門性や豊富な資料で特徴のある中央図書館と棲み分け。
- ・ 賑わいを創造する図書館に必要なのは、資料や情報が揃っている的確なレファレンスができる図書館員がいること。
- ・ 予約図書を受け取りに来る場所としての図書館を超えて、本を読み、納得し感動する、多くの人々がそれらを共有できる場所に。都市空間には図書館が必要と皆が納得する図書館に。
- ・ 神戸の玄関口の図書館であるので、従来の役割に加えて他県や他国の人々に向けての情報発信の場として、コミュニケーションの場としての図書館づくりを希望。

- ・賑わい創出に関するニーズを的確・迅速に反映できるように神戸市直営が望ましい。

(4) 施設・設備に関するもの

- ・ 立地、利便性をそのままに広い面積を。
- ・ 今ある図書館よりもう少し大きな図書館を作ってほしい。
- ・ 少なくとも東灘区の図書館の規模はあってほしい。
- ・ 図書館の中で食事ができ、見晴らしも良く、長時間読書を楽しめるような図書館。
- ・ カフェや書店とコラボしたようなカッコいい、子供も楽しめる図書館。
- ・ (あかし市民図書館を例に) 児童書コーナーは照明が明るく、本を選び易い書架が並び、おはなし会などを出来るお部屋もある。一般の本についても椅子の配置や種類が工夫され本を読む空間がいくつも用意されていた。
- ・ 読書サークルが集える部屋を。
- ・ 子供向けの本の充実に加え、幼児が遊べるスペースを併設。
- ・ 高齢者に優しい図書館を。いろいろな方々に利用し易い出入り口、室内設備、お手洗いに配慮を。
- ・ 他自治体で外見重視の設計の公共図書館が注目されているが、本来の図書館専門業務が、単なる賑やかしのために軽視されてはいけない。

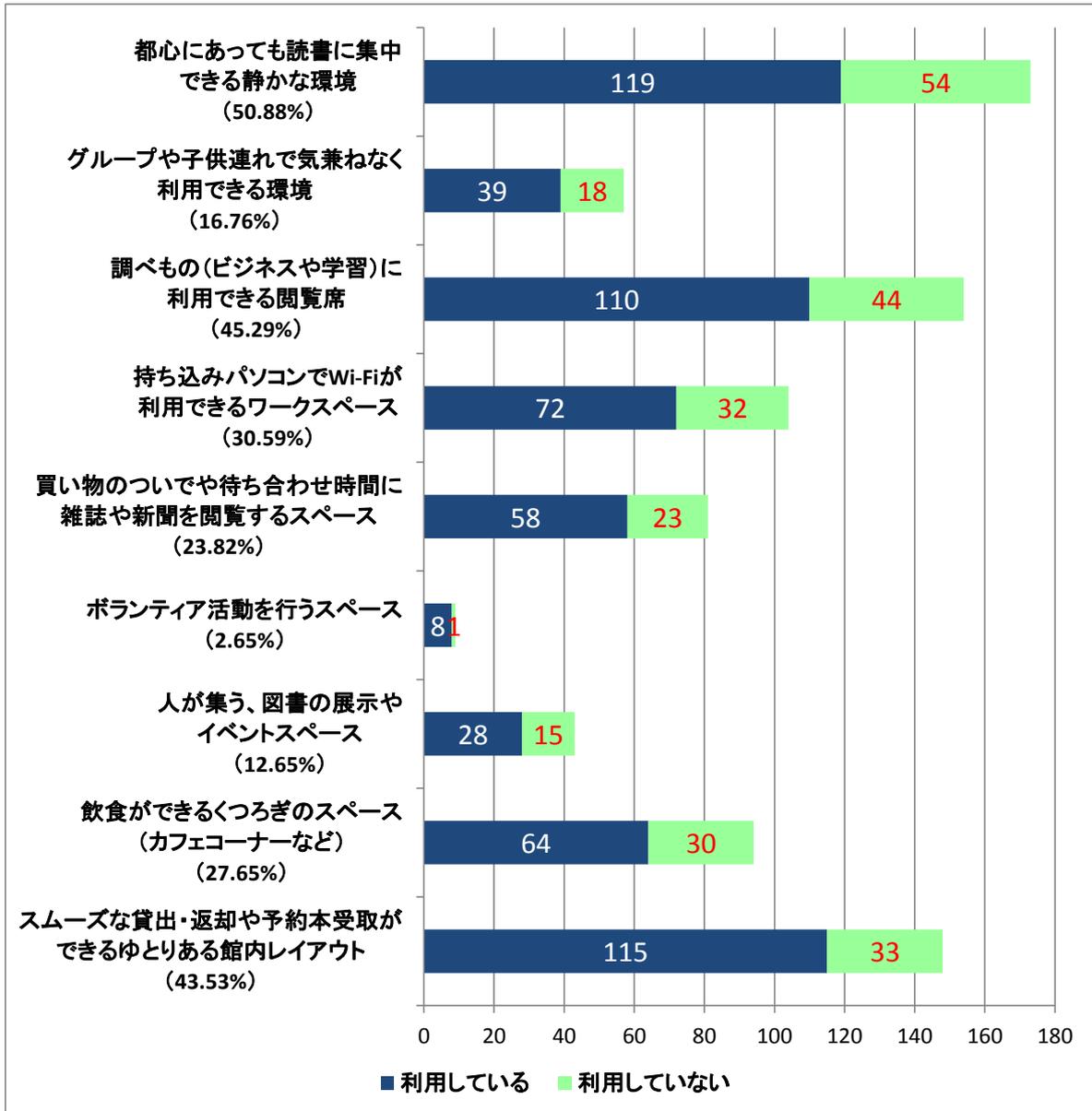
(5) その他のご意見

- ・ 新三宮図書館の準備室みたいなものがあると思うが、その場に利用者やボランティアなどの参加を入れて、広く意見を聞いて、取り入れてほしい。
- ・ 図書館の専門家と一緒に市民(図書館利用者)が新しい三宮図書館について考える機会を作ってほしい。
- ・ 外からのお客様の事ばかりに目を向ける様だが、そこに住んでいる神戸市民の声をよく聞いて市民の利用しやすいものにしてほしい。

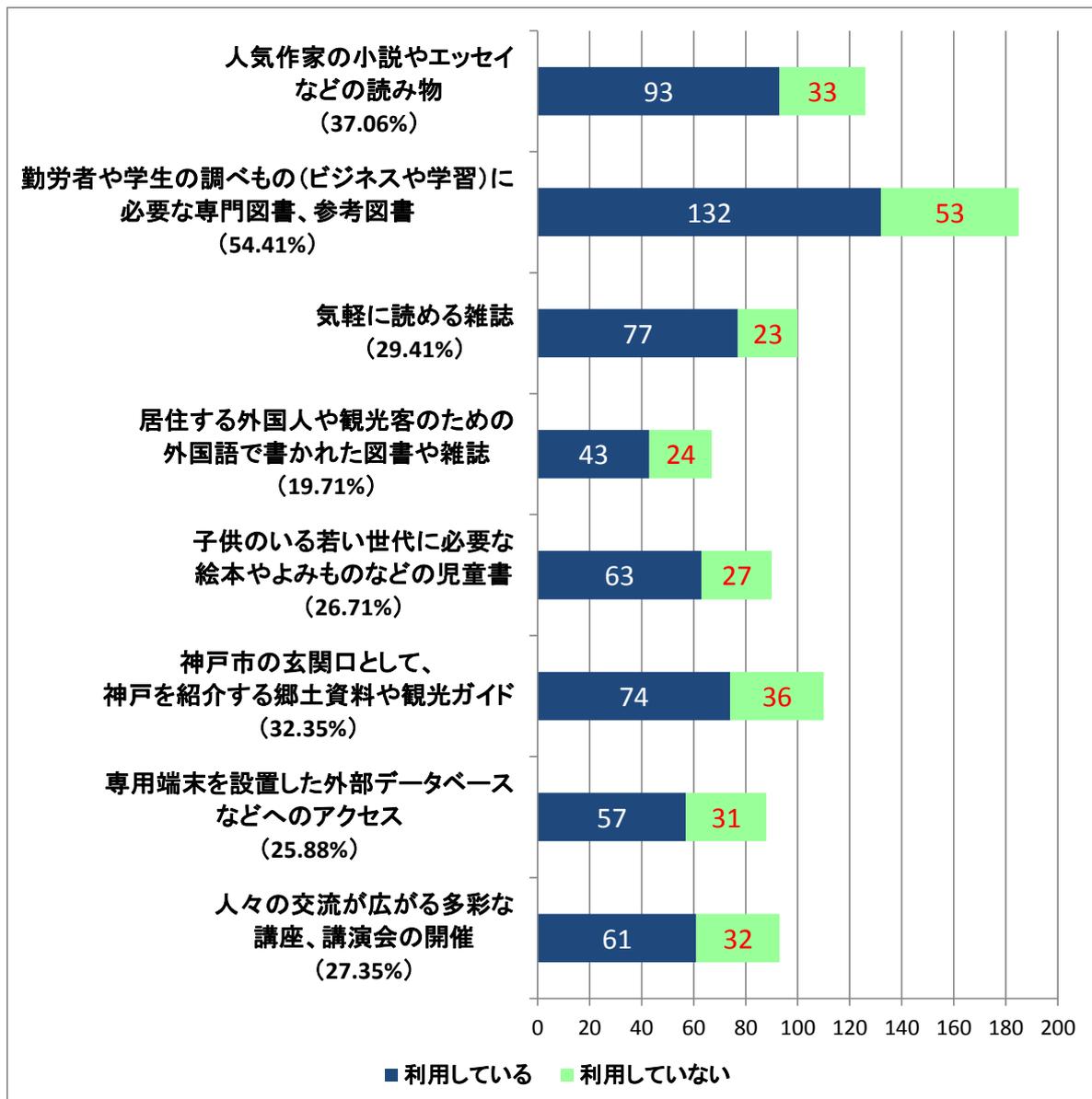
3. 新・三宮図書館基本構想に係るネットアンケート（平成30年6月）

神戸市のホームページ上でアンケートを実施し、340件の回答がありました。回答者のうち、中央区在住は20%で、市内のその他の区在住が65%、市外が15%でした。会社員、自営業、パート・アルバイト等、勤労者からの回答が約80%を占めました。また、回答者の過去6か月間に三宮図書館の利用頻度を尋ねたところ、利用されていない方からの回答が約30%ありました。

（1）施設・設備について必要と思われるもの（3つまで選択）



(2) 資料・情報について必要と思われるもの（3つまで選択）



(3) 自由意見から抜粋

A. 資料・情報に関するもの

- ・ 名作等の幅広いジャンルの図書。
- ・ 手に入りにくい雑誌や書籍。
- ・ 三宮は子供が遊ぶ場所や施設がないので、子供向けの本の蔵書を増やし、小、中学生が安心して本を読める安全な空間を作って欲しいです。子供向けの本も大人の読み物も蔵書が少なすぎ。
- ・ 神戸の魅力が伝わるような資料がたくさんあると良い。

- ・アジアからの人が増えているので、生活の手引きなどの本が多くあるとよい。
- ・最新の新書や文庫本、単行本は言うまでもなく過去の文学作品で新たに新装改訂されているものはどんどん取り入れて欲しい。
- ・身近な外国語外国人への親しみが持てるように、中国語や韓国語などの絵本をその国の言葉で子どもに読んであげたいので中国語やハングル語の音声CD(もしくは読み方ルビがカタカナなどで文字の上に付いてるもの)と日本語訳付きの絵本。

B. 利用・運営に関するもの

- ・座席に時間制限をかけてほしい。同じ人が、何の制限もなく一日中座席を確保することを、できるだけ減らしてほしい。難しいだろうとわかってはいるが、すごく利用しにくいので。
- ・基本的な図書館機能さえあれば十分であり、多目的でなくともよく、図書館が都心の潤い空間となるよう工夫を。
- ・専門の司書さんに、ゆっくり本のことが尋ねられるレファレンススペースが欲しい。ツタヤ図書館のように単に「おしゃれ感」を追う、箱だけの図書館ではなく、三宮という、働く社会人が多く利用する図書館の役目として「ここに行けば調べごとが解決できる」「専門の司書さんにしっかりと本のことを尋ねられる」という場所になっていただきたい。
- ・交流が広がる講座を充実してほしい。でも、その情報の認知として、広めの空間、自習室の充実を確保して、まずは色々な世代の客層に、図書館じたいに足を運んでもらう必要がある。
- ・美しい図書館もいいが、アットホームな図書館になってほしい。子連れでも行きやすい工夫がほしい。
- ・バスターミナル利用者を考慮し、神戸の旅行ガイドブックを充実させたコーナーの設置。

C. 施設・設備に関するもの

- ・予約本を借りに行くことが多いが、高層階になると足が向きにくくなるかもしれない。
- ・快適なトイレ。児童書コーナーで子供が気兼ねなく過ごせるよう。一般コーナーで子供が騒ぐ声が不快にならないようなある程度分離されたレイアウト。映像コーナー。
- ・豊富な蔵書と読書専用の静かなスペースおよびカフェコーナーでリラックスして読書できるスペースの共存。
- ・神戸市の中央区という都会に似合う、カッコいい施設。
- ・ファンが回っているような天井が高く開放的でハイセンスな空間、また都心なので夜でもおしゃれに利用できるような図書館にしてほしい。
- ・子どもが絵本って楽しいと思えるような読書スペース。以前住んでいた東京都港区麻布図書館は、子どもと大人で階が分かれていて、子どもフロアにはとても良い読書スペースがあり、おかげで子どもが本好きになった。
- ・こども図書館みたいに、寝転がりながら読んだり、小さな赤ちゃんから本に携われる環境作りをしてほしい。そして子供の成長と共に、一緒に親子で読書できるスペースが欲しい。

- ・ 子連れで行くにしても、低層階の方がいい。高層階にはホテル等も入ると聞く。そういった都会的な雰囲気もいいが、足を踏み入れにくくなる危険もある。美しい図書館より子連れが行きやすい図書館を目指すべきである。
- ・ 仕事で使うことがあるので、現在のデータベースはこれからも継続してほしい。三宮図書館の本に不満はない。神戸の図書館は素晴らしいと思う。
- ・ バスターミナルとの接続によるビジネスマンや旅行者への情報収集や提供の場。大ホール等の催しと連携した企画。生活圏にある図書館のイメージも残したスペース作り。
- ・ 社会人や学生が共同研究やディスカッションができるグループスペース。

第4章 (仮称) 新三宮図書館整備検討会

再整備ビルに移転整備を行う三宮図書館について、有識者等から、コンセプトや基本的な方針、機能等について幅広く意見を求めることを目的として、平成30年7月から9月にかけて「(仮称)新三宮図書館整備検討会」を開催しました。検討会の内容と意見のまとめについては、図書館のホームページで、別途、公開しています。

1. 検討会委員名簿

小林 圭子	ボランティアグループもものたね	
佐藤 翔	同志社大学図書館司書課程 准教授	
中井 孝幸	愛知工業大学工学部建築学科 教授	
村上 豪英	神戸モトマチ大学 代表	
吉富 志津代	名古屋外国語大学 教授	(順不同)

2. 検討会開催記録

	日程	時間	内容
第1回	7月23日(月曜)	12時半～14時半	利用者層と立地環境特性について 求められる空間・設備について
第2回	8月30日(木曜)	12時半～14時半	多様性とアクセシビリティについて バスターミナル等との連携について
第3回	9月12日(水曜)	11時～13時	コンセプトや基本方針等について

■意見抜粋

(1) 利用者層と立地環境特性について

- ・現在の利用状況から見ると様々なところから利用者が来る場所になっている。その立地を活かして、多世代の人たちが利用できる場所にしてほしい。
- ・新しい図書館には、神戸市立図書館全体の活動や各地域図書館の活動の紹介など、市民の図書館利用の契機にもなる情報ステーションとしてのサービスが大事である。

(2) 求められる空間・設備について

- ・空間的なところで付加価値を付けるというのは必要(高級な椅子など)。
- ・賑わいも大事ということから少し話をしても良いような環境を作るのであれば、逆に静かに本を読めるところも作るべき。

(3) 多様性とアクセシビリティについて

- ・住んでいる人たちの多言語、多文化を尊重する視点があるとそこに(多言語、多文化の人)は来る。資料は多くなくてもよい。図書館に行けば多言語・多文化との出会いがあるというのがよい。

- ・バリアフリーということだけでなく、近づきやすさという意味で、サインなども含めたアクセシビリティが大切である。

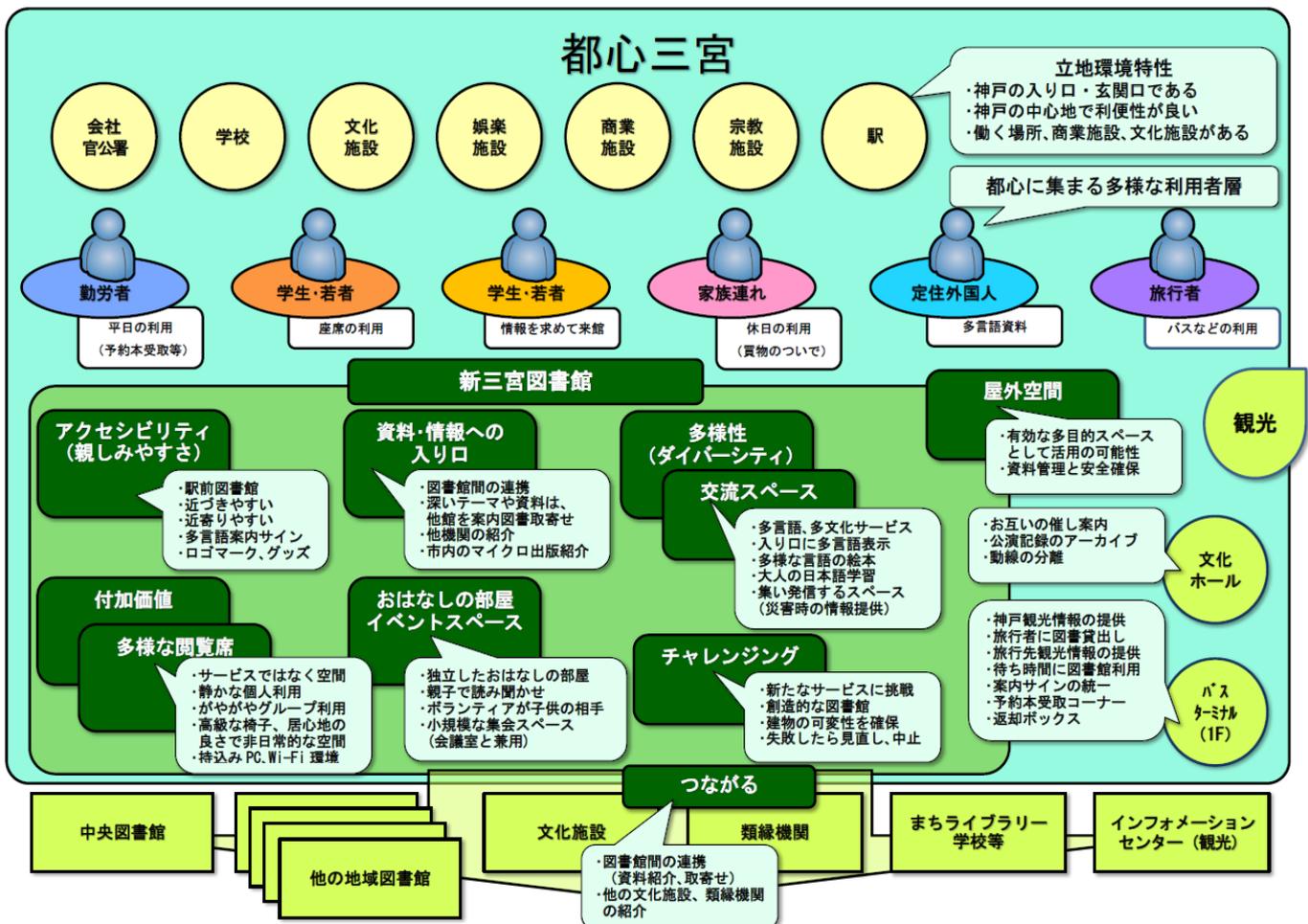
(4) バスターミナルやホールとの連携について

- ・バスを待つ間に図書館を使ってもらえるようなスペースを作って、神戸から出かける旅行者に借りて行ってもらうと良い。バスの中で返してもらうなどバス会社と連携できるのではないかな。
- ・ホールと連携し、これは、という催しについては施設全体で案内をして、図書館ではそれに合わせて特別展示を行うなどが考えられる。
- ・ホールと図書館の利用者動線は、図書館利用者の利便性からいうと分けたほうが良い。

(5) コンセプトや基本方針について

- ・館内に情報発信ツールを持つなど、災害時の情報提供のあり方を考える必要がある。
- ・誰でもアクセスできる場所があることは社会課題が見えるという点からも非常に大切。
- ・新しい三宮図書館はいろいろな施設とつながれば相当良いネットワークができる。

3. 検討会での意見のキーワード整理



第5章 (仮称) 新三宮図書館整備に必要な視点

市民ニーズの把握や検討会でのご意見などから見えてきた(仮称)新三宮図書館整備に必要な視点です。

1. 神戸の玄関口に在る意味

都心三宮にある図書館として、神戸の魅力を改めて発信する場所であり、図書館自体が神戸のイメージを高めるような美しい場所であることが求められます。

2. 読書環境の向上

狭く座る場所がないという課題の解決には、まずは今よりも広い規模の図書館になる必要があります。加えて、快適に読書を楽しんでもらうためには、上質な読書空間づくりが必要です。さまざまな利用目的で訪れる人たちそれぞれが快適に過ごせるように、コーナーづくりや座席のしつらえの工夫等が必要です。

3. 近づきやすさ、使いやすさ

都心三宮の駅前の再整備ビル内に整備されるため、現在と同じ場所とはいえ、これまで以上に多様な人々が来館することが予想されます。初めての人にも外国人等にも入りやすく使いやすい図書館を目指す必要があります。

4. つなぐ機能

さまざまな疑問を持って図書館に立ち寄る人々に対し、新しい三宮図書館は、そこで完全な回答をするというよりも、より広く専門的な情報を得るために、中央図書館や類縁機関を案内するなど、人と情報、人と類縁機関をつなぐ機能が求められます。

第6章（仮称）新三宮図書館コンセプト・基本方針

1. コンセプト

「美しい知と情報のゲートウェイ」

図書館は、人が何か情報を得たいと思った時の探索のゲートウェイです。新しい図書館は、都心にあって、さまざまな人々の情報の求めに応じる場所となります。暮らしやビジネス、学習あるいは観光に必要な知識・情報を求める人を、美しいたまたまのゲートウェイから求める情報に導きます。

2. 基本方針と機能

（1）神戸の玄関口・三宮に、他には無い美しく快適な読書空間をつくります。

- ・気軽に立ち寄れる雰囲気と、上質な雰囲気を兼ね備えた読書空間をつくります。
- ・眺望の良い閲覧席など、山が近く、緑豊かな神戸の魅力を体感できる快適な空間をめざします。
- ・静かな読書のみ可能な席、学習席、公衆無線LANやパソコン等を使用しワーキングスペースのように使用する席など、多様な利用スタイルを用意し、若い世代にも支持される環境をつくります。
- ・一部の座席については申込制、予約制、時間制限などを行い、より多くの人がスムーズに使用できるように、座席予約システムの導入を検討します。

（2）暮らす人、働く人、学ぶ人に対し、本に限らないデジタルメディアなど最新のICT技術を活用した新たなサービスの提供にチャレンジします。

① 多様な資料の収集・提供

- ・多くの人が訪れる図書館であるため、多様な資料を収集・提供します。市民の暮らしやビジネス、及び学習に役立つ資料、趣味や楽しみのための資料、子供向けの資料、芸術や文化関係資料、地域に関する資料などを収集し、市民の知的欲求に応えます。
- ・市民が多様な入り口から求める情報にたどりつけるよう、データベースや電子書籍等、デジタルメディアも提供します。技術の趨勢に留意しながらICT技術の導入を検討し、新たなサービスの可能性を追求します。
- ・外国人との共生が進む社会において、日本語以外の図書の収集も必要です。神戸に暮らす外国人の母語の資料や日本で生活を支える資料などが考えられます。デジタルサイネージで多言語の新聞を提供するなど、紙媒体に限らない提供方法を考えます。

② 本と人を出合わせ、本を通して人と人を出会わせる場の提供

- ・ 本のある場所のすぐ側で催しを行うからこそ楽しみや理解が深まり、関係する本を手にとって語り合うこともできます。本と人の出会いのために、美しく本を展示するコーナーや、セミナー等の催しを開催する部屋を持ち、講師を招いた連続講座や利用者同士の読書会などを行います。
- ・ 屋上庭園など共用スペースの有効活用を検討します。

(3) 暮らす人、訪れる人に、神戸の歴史と文化、居住場所としての魅力を紹介し、神戸の再発見につなげます。

- ・ 神戸に暮らす人には、山と海が近い自然の豊かさ、都会的な便利さなど、この街の魅力を再発見できるよう、関係部局と連携し、神戸ブランドの紹介や神戸PRの動画など本の形に限らない地域情報も使用しながら、効果的に資料を展示します。
- ・ 神戸を訪れる人に対して、神戸の歴史や文化についてのわかりやすい資料を備え、神戸の歴史を簡単に説明するミニコーナーを設置します。

(4) 障害者、高齢者、幼い子供連れの方、外国人など多様な人々の図書館利用のアクセシビリティに配慮します。

- ・ 多様な人々が利用する都心の図書館であるため、図書館の情報やサービスを利用する上でのアクセシビリティの確保が重要です。
- ・ 高齢の方や弱視の方向けには、これまでは大活字本を提供してきましたが、今後は、読書が困難な方も想定した読み上げ機能を持つ電子図書館サービスや配信型のオーディオブックの提供が可能な設備も視野に入れます。
- ・ 子供連れの方にとって利用しやすい雰囲気が必要です。授乳室等のほか、親子で読み聞かせが楽しめるスペースなどは、一般利用のコーナーとは離して気兼ねなく利用できる配置を検討します。また、再整備ビル全体の利用者が使える託児室など、子育て世代が文化や芸術に親しみやすくする施設面での工夫が、ビル全体として必要です。
- ・ 多言語資料の提供に際しては、資料だけでなく、多言語での利用案内・サイン等を整備し、初めての人にも入りやすい雰囲気を作るとともに、ホームページなどからの適切な情報発信を行います。
- ・ 多くの人の来館が見込まれる新しい三宮図書館では、現在、窓口で行われている貸出手続きや返却手続きを、可能な限り、ICTの技術を使って自動化することで利便性向上をめざします。
- ・ 災害時の安全確保の観点から、多言語表記やピクトグラム等のサイン以外にも、ミニラジオ放送設備などの情報提供手段を検討します。

(5) 文化芸術情報、地域情報、行政情報など、さまざまな情報を求める利用者を、中央図書館はもとより、博物館、文書館などの専門機関や市政情報室や大学等につなげます。

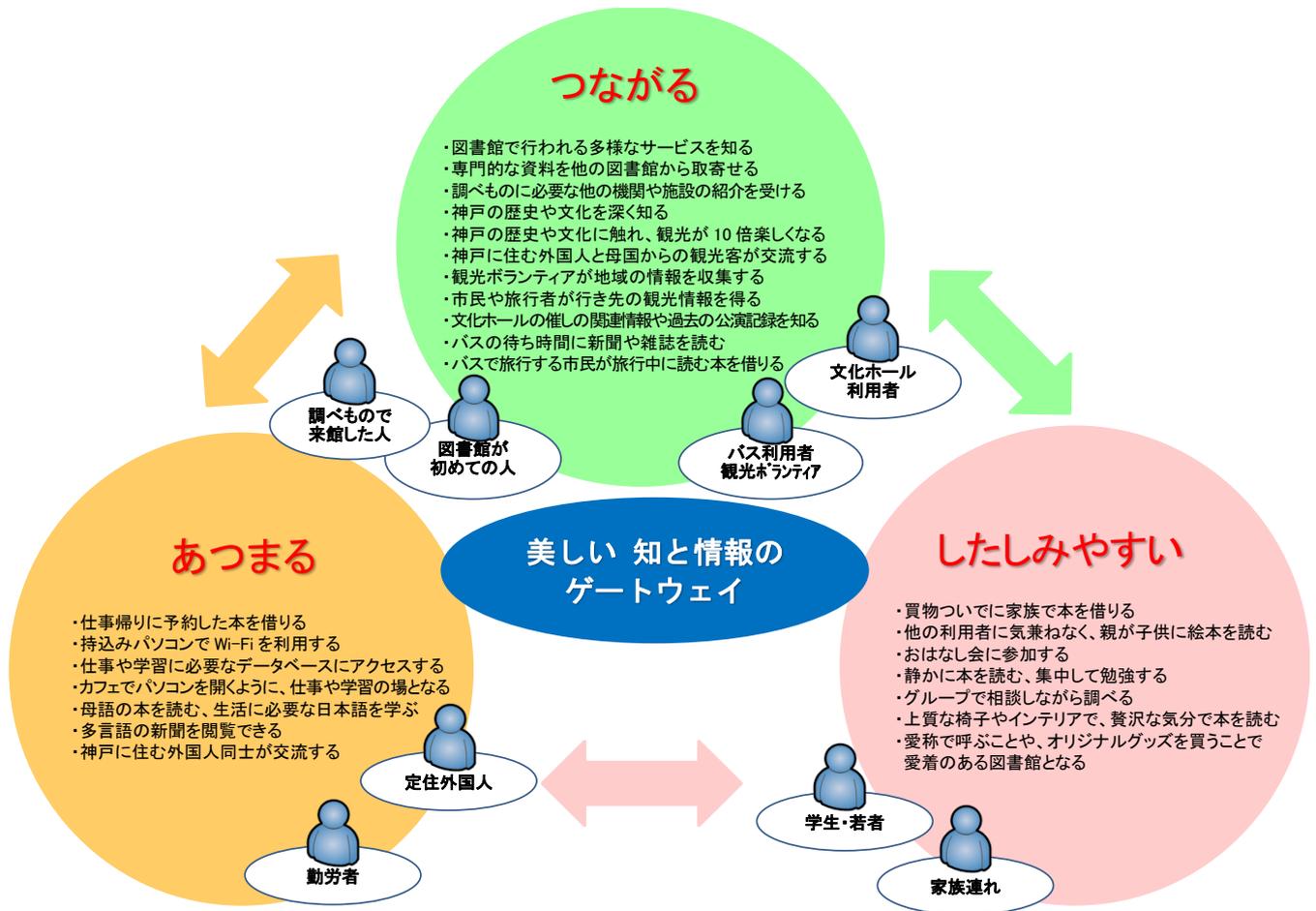
- ・ 神戸のハブである都心三宮にあるため、新しい図書館では、アクセスのしやすさから、市の内外からさまざまな情報を求める利用者の来館が見込まれます。司書のガイドにより、中央図書館の100万冊の資料につなぎ、さらには博物館、文書館、

専門機関、大学等、都心付近に多く存在する類縁施設や関係機関につなぐことで、より広く深い知識・情報の獲得に導きます。

- ・初めて図書館を利用するという方には、図書館利用のガイダンスとして、身近な地域図書館の利用案内や、中央図書館の専門的なレファレンスを案内します。
- ・関係機関とは利用案内、催しもの案内など情報の交換を行い、利用者を求める情報にスムーズにつなげるように、日頃からの関係性構築に努めます。
- ・市内の古書店の情報や、ごく小規模に出版されるマイクロ出版物の紹介など、神戸の活字文化の振興に協力します。

(6) 文化ホールやバスターミナルに近い環境を生かし、新たな利用者層を掘り起こし、街の賑わい創出や回遊性向上の一助となります。

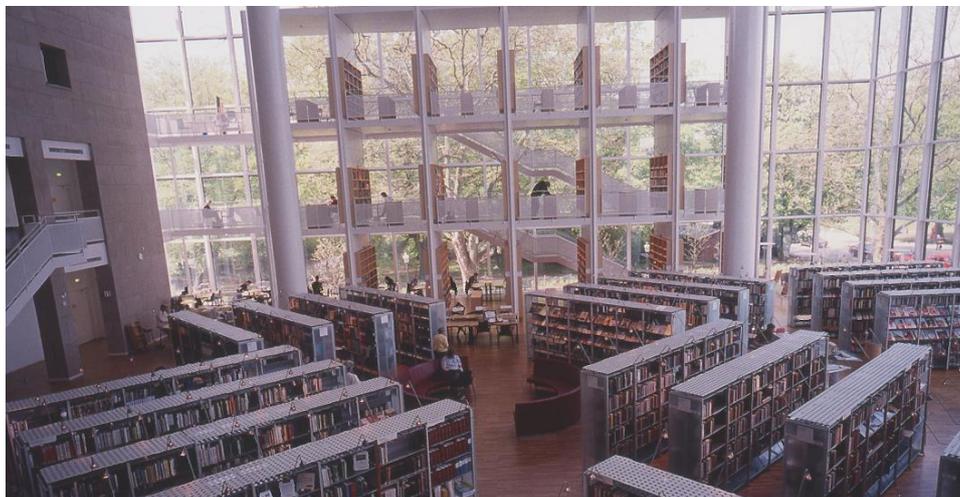
- ・文化ホールに来て図書館の存在に気付く方、図書館に来て文化ホールの催しに気付く方、中・長距離バスで神戸を訪れる方や出張などで出かける方の立ち寄り利用など、都心の複合施設ならではの利用が予想されます。ホールでの催しに関する展示や、バスターミナルでの行き先関連の資料展示、返却ボックスの設置など、図書館サービスを連携先のスペースで展開することも視野に入れ、さまざまな工夫をしながら新たな利用者層の掘り起こしに努めます。
- ・複合施設内での利用者の動線については、利便性の観点から今後充分検討していきます。



第7章 新しい図書館に求められる規模

現在の三宮図書館は606㎡と狭く、利用者からは、居心地の良さを求める声、座席数・蔵書数の拡充についての要望を多くいただいています。再整備ビル内の図書館の具体的な規模や位置については、ビルの魅力を高めるという全体の検討の中で決定されるものですが、「新たな中・長距離バスターミナルの整備に向けた雲井通5・6丁目再整備基本計画」にあるとおり開放的で魅力的な空間となること、また利用者の強い希望である居心地の良い読書空間となることをめざします。これにより、新しい三宮図書館には、神戸市内で最近に建設された東灘図書館（1,485㎡）程度の規模は必要と考えます。さらに、図書館内部の設えは、将来の多様な変化に対応可能な、可変的な構造が望ましいと考えています。

(参考) 世界や日本の美しい図書館



マルメ市立図書館（スウェーデン）



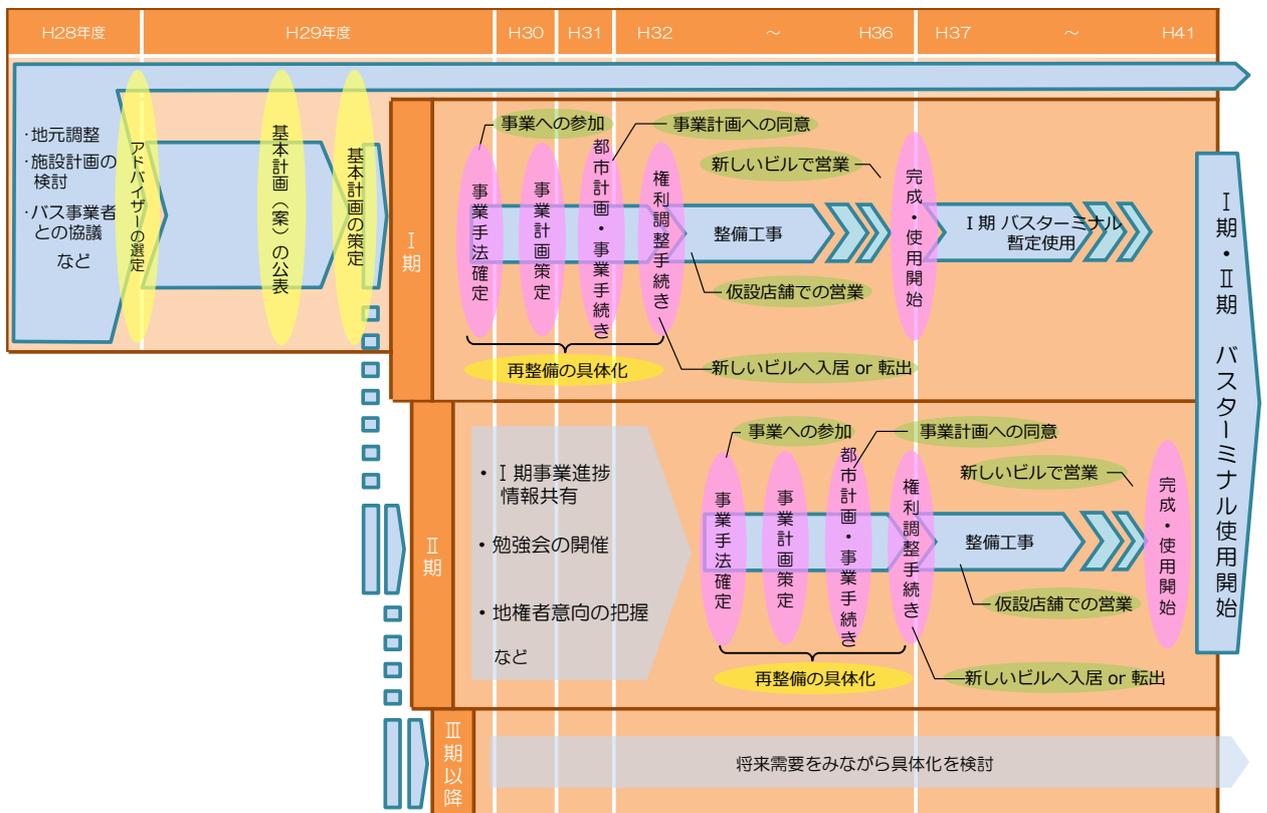
南魚沼市図書館（新潟県）

第8章 再整備ビルスケジュール

1. I期についての目標スケジュール

I期についての目標スケジュールは、以下のとおりです。

- ・平成30～31年度：事業計画策定、都市計画・事業計画手続き
- ・平成32～37年度頃：権利調整手続き、従前建物の解体工事、現地施設整備工事、
I期バスターミナル暫定使用開始



(「新たな中・長距離バスターミナルの整備に向けた雲井通5・6丁目再整備基本計画」より)

2. (仮称) 新三宮図書館に関する今後の検討について

平成30年5月、雲井通5丁目の再整備の事業化に向け「雲井通5丁目再開発株式会社」(以下、「再開発会社」という。)が設立されました。

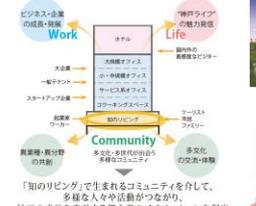
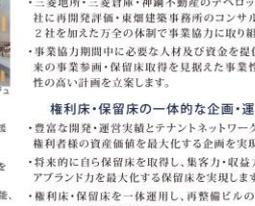
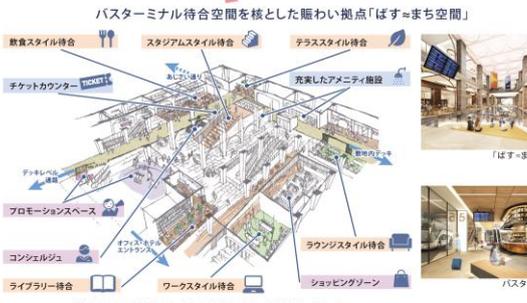
再開発会社は、市街地再開発事業としての事業化の検討にあたって、技術的、資金的なサポート等を行う事業協力者を公募し、審査の結果、9月に三菱地所株式会社を代表事業者とするグループが事業協力者に選定されました。

事業協力者からの提案では、三宮図書館については「スカイライブラリー」として再整備ビル基壇部の屋上庭園を中心にビジネス支援、ホテルラウンジ等などが集約された「知のリビング」を構成する要素のひとつとして位置付けられています。

「雲井通5丁目地区再整備事業 事業協力者募集」提案概要 (※提案内容は、募集要項に基づき応募者が作成したものであり、そのまま実現されると決まったものではありません。)
(提案事業者グループ) 代表事業者: 三菱地所㈱ 構成事業者: 三菱倉庫㈱、神鋼不動産㈱、㈱東畑建築事務所、㈱再開発評価

「つなぐ」～神戸を世界とつなぐ、未来へつなぐ、次世代の都心創造プロジェクト～

港を介して世界とつながり、多様な文化の融合から新たな価値を生み出してきた国際都市神戸。
神戸と全国各地をつなぐバスターミナルのポテンシャルを活かし、神戸のさらなる「国際化」と「成長」を牽引するまちづくりにチャレンジします。

歴史を未来へ「つなぐ」	多様な都市機能を「つなぐ」	まちの賑わいを「つなぐ」	価値を「つなぐ」
世界的建築家・坂 茂(はら しげる)と共に、培われてきたまちと賑わい、風景をつなぎ、リーディングプロジェクトにふさわしい品格と永続性のある景観形成を図ります。	働くこと(Work)と暮らすこと(Life)が融合した恵まれた都市環境と、多様なコミュニティの存在という神戸の魅力を増強し、国内外から企業・人材を神戸に呼び込む都市機能集積を図ります。	立体街路「バーティカルパサージュ」が、「都市のジャンクション」に集まる人の流れを「知のリビング」につなぎ、神戸のまちの特徴を表現した立体回遊のしかけを創出します。	事業協力者として責任を持って1期事業の推進に取り組むとともに、ビルとエリアの価値を長期的に維持・発展させる一体的なマネジメントに取り組みます。
都市のアクティビティを表現するデザイン	神戸を代表するフラッグシップオフィス	賑わいを引き込む立体回遊創出	万全の協働体制で事業化を支援
 北東から見る建物外観			
震災復興にも関わらせていただいた神戸に建つ本プロジェクトでは、表層的でなく、そこでのアクティビティを表すことで、新しい神戸のシンボルを創りたいと考えています。 坂 茂	「知のリビング」で生まれるコミュニティを介して、多様な人々や活動がつながり、神戸の成長を牽引する都心発のイノベーションを創出	ビル基壇部の屋上庭園を中心に、スカイライブラリーやビジネス支援機能、ホテルラウンジ等を集約。施設内の多様なアクティビティに触れながら、施設上部に人の流れを誘う空間。バスターミナル機能を核に、観光機能、商業機能を複合した賑わい拠点	・三菱地所・三菱倉庫・神鋼不動産のデベロッパ3社に再開発評価・東畑建築事務所のコンサルタント2社を加えた万全の体制で事業協力に取り組みます。 ・事業協力期間中に必要な人材及び資金を提供し、将来の事業参画・保留床取得を見据えた事業性・実現性の高い計画を立案します。 ・権利床・保留床の一体的な企画・運用 ・豊富な開発・運営実績とテナントネットワークにより、権利者様の資産価値を最大化する企画を実現します。 ・将来的に自ら保留床を取得し、集客力・収益力・エリアアブロード力を最大化する保留床を実現します。 ・権利床・保留床を一体運用し、再整備ビルの魅力を中・長期的に維持・向上します。
	「知のリビング」で生まれるコミュニティを介して、多様な人々や活動がつながり、神戸の成長を牽引する都心発のイノベーションを創出	「ばす+まち空間」	一体的な運用 (権利取得・プロモーション等)
 西道2号沿いの賑わい  あじさい通り沿いの賑わい		 「ばす+まち空間」  バスターミナル	 再整備ビルの魅力周辺につなぐエリアマネジメント ・再整備ビルの取り組みを基に、三宮周辺地区全体でのエリアマネジメントの実現に向けて、関係者との協働により積極的に取り組みます。
	「神戸ライフ」の魅力が詰まった旅の出発地「ばす+まち空間」イメージ		再整備ビル 三宮東地区 三宮西地区 エリアマネジメント取り組みイメージ

事業協力者からの提案概要

(※提案内容については、そのまま実現すると決まったものではありません)

今後、再開発会社による事業計画が策定されるなど、再整備の具体化が進むなかで、図書館の規模や位置が決定されていきますが、事業計画の策定においては、この「(仮称)新三宮図書館基本計画」の内容を反映することとなっています。

本計画は、新しい図書館の基本的な方向性や機能を示すものであり、事業の進捗に伴い、より具体的なサービス計画などの検討が必要です。今後も市民の意見を伺いながら、検討を深めてまいります。

(仮称) 新三宮図書館基本計画

平成 30 年 12 月

問合せ先 神戸市立中央図書館

〒650-0017 神戸市中央区楠町 7 丁目 2-1

電話 (078) 371-3351

FAX (078) 371-5046